

「『こんにちは県議会です』地域住民等との意見交換会」開催概要

- 1 開催日時 令和元年11月11日（月）午後3時30分から午後5時30分
- 2 開催場所 松本市中央公民館 3階会議室
- 3 参加団体 (1) 母親地域活動団体 シャインママ
(2) 一般社団法人松本青年会議所
(3) 信州大学地域参画プロジェクトCHANGE
(4) 信州大学政治参加推進コミュニティーVOTERS

4 出席議員

区 分	出 席 議 員
議 長	清沢 英男
副 議 長	荒井 武志
広報委員	丸山 大輔、寺沢 功希、加藤 康治、両角 友成
地元議員	(松本市・東筑摩郡) 本郷 一彦、中川 宏昌、中川 博司 (塩尻市) 続木 幹夫

- 5 意見交換テーマ 「地方議会選挙の投票率の低下、特に若者の投票率向上について」
「環境政策推進条例（仮称）について」

6 開催内容

各団体による活動紹介、グループ毎による意見交換・懇談

- 7 出席者 40名（議員10名、参加団体15名、傍聴者15名）



○開会

(司会：荒井副議長)

定刻となりましたので、ただ今から「『こんにちは県議会です』地域住民等との意見交換会」を始めます。

私は、本日の進行を務めます、長野県議会副議長で広報委員会委員長の荒井武志でございます。どうぞよろしく申し上げます。

○長野県議会議長あいさつ・県政報告

(荒井副議長)

それでは、長野県議会を代表いたしまして、清沢英男議長からあいさつ及び県政報告を申し上げます。

(清沢議長)

皆さんこんにちは。御紹介いただきました県議会議長を務めております清沢でございます。

県議会では、県民の皆さんに県議会とはこういうところだということをお知りいただくことと、県議会としてきちんと御報告しなければならないこと等を「こんにちは県議会です」という機会をつくらせてもらいやっております。きょうは、地域住民の皆さんと意見交換させていただいて、こちらとしてもいろいろ勉強させていただこうということでもあります。

本日は、私、荒井副議長、県議会の広報委員、そして地元の県議会議員が出席させていただいております。よろしく願いいたします。

県政報告という話がありましたが、かた苦しいことでなくて、最近の県議会の動き等について、お話をさせていただきます。

まずは、台風第19号災害のことについて御報告を申し上げなければならないと思います。

今回の台風被害につきましては、東北信を中心に、千曲川沿線での堤防の決壊等、あるいは家屋やライフライン、農業、産業など広範囲に、多岐にわたって甚大な被害が生じたわけでありまして。現在、復旧に向けて県として全力で取り組んでおりますが、いずれにしても国の支援が不可欠でありまして、県議会としても全国都道府県議会議長会に支援要請をお願いするとともに、安倍総理が被災現場や被災地を視察に訪れてくださった機会を利用して、地方六団体と言っていますが、知事会、県議会、市長会、町村会、市町村議会の皆さんとともに、総理にこの惨状を見ていただく中で、国としても全面的な支援をお願いしたいということを陳情したわけですが、それに伴って各関係の大臣も、これは報道されておりましたが、続々と入っていただきまして、早期の復旧を約束していただいているところであります。

県議会全体としても災害対策連絡本部をつくり、被災地の状況と復旧復興に向けた課題等を早急に把握するために現地調査を実施しまして、一日も早い復旧復興に向けて全力で取り組んでいきたいと思っております。

個人的な話になるかもしれませんが、今回の台風災害で殊に思ったことは、千曲川の水源は長野県と山梨県の県境の山です。そこから流れ出す、大変長い川で最後は信濃川になる。上流の佐久や上田でこれまでにない記録的な雨量を12日の夜間に観測しているわけです。あちこちで災害が起こっているわけですが、長野市の穂保で堤防が決壊するまでにタイムラグがありまして、佐久の上流で降った雨があそこに届くまでに五、六時間かかっている。穂保の人たちは朝、台風はもう過ぎて、雨はやんだので、家へ行って物を片づけようかとしていたところに千曲川の決壊が起こった。朝3時ごろから越流を始めまして、4時ごろに決壊した、そこをテレビで映し出されたということです。今までにない災害になった。

今年だけという話ならば別ですが、これからはでもそうではない。今までの記録を総合的に見ると、これは恒常的に起こる災害だと捉えていかなければならないのではないかと学者の先生方を初め、大勢そんなことをおっしゃいます。洪水災害が新しいフェーズに入った、そういう対策を今後は立てていかなければならないと思います。

広報委員会の皆さんがつくってくださいます広報紙「こんにちは県議会です」は新聞に折り込まれますが、今回の広報紙は災害が起こる前に原稿ができ上がったため、災害のことはわずか一部分しか出ていないため、次回の広報紙では県民の皆さんに対する支援のあり方等を大きく掲載させていただくことにいたします。

それから、9月県議会で議論されたところでありますが、豚コレラです。豚コレラは文字どおり豚のコレラですが、これはイノシシとか豚とかにしか感染しない。例えば豚の感染肉を食べても人間は何の影響も受けないということですが、ただ、困ることは養豚農家の皆さんが飼っている豚がみんな死んでしまうということです。そのためにいろいろ長野県としても苦慮したわけでありまして。感染源は野生イノシシということになりますと、それを全部捕まえるわけにもいきませんし、ただ野生イノシシにワクチンを食べてもらってということしかできない。でも、それでは不安も残りますし、実際にそういう対策を打っていてもどんどん養豚場が豚コレラに感染して殺処分しなければいけない事態が発生しましたので、この際、長野県で飼っている全部の豚にワクチン注射をしようということを決めて、それをやり始めた。そのことについて、私が消費者の皆さんにお願いしたいのは、10年前には日本の豚はみんなワクチン注射をしていた。それを食べて、誰も何も感じなかった。私どもは今その対策をとっていますが、私たちが消費する豚の肉がワクチン注射をしたままであっても、気にしないでいただきたいと思えます。その辺はきょうまたいろいろな議論の中でお話をさせていただきます。

それから、もう一つ、6月16日に長野県軽井沢でG20の環境関係大臣の会合が開かれたわけでありまして。その会合が開かれるに当たって、長野県では長野宣言をしました。長野県は今の時代に海洋プラス

チック等ごみ等の対策をしっかりやり、上流県としての責任を果たしていかなければいけないということも思ったわけですが、せっかく環境大臣の会合が開かれて、環境省や経済産業省を主体とした問題を話し合ったわけでありますので、長野県議会としても環境に対する条例を議員提案条例としてやっつけていかなければいけないのではないかとということが話し合われました。そこで、議会だけの知見でなく、こういう皆さんが集まる機会を捉えさせていただいて、話し合いをさせていただければということでありますので、本日はよろしくお願ひしたいと思います。

それから、今日は意見交換の中で皆さんが日ごろやっつけていただいている活動等も紹介していただく中で、地方議会選挙における投票率の低下、ここに若い皆さんが大勢いるので大変失礼だと思いますが、若い皆さんの投票率の向上ということについてもお知恵を貸していただければということでもあります。

そのようなことで、今日お集まりいただきました皆様から忌憚のない御意見をいただきまして、我々もいい勉強の機会にさせていただければと思いますので、どうぞよろしく御協力をお願い申し上げる次第でございます。

以上、長くなりましたが、御挨拶とさせていただきます。

きょうはどうぞよろしくお願ひいたします。

○出席議員自己紹介

(荒井副議長)

それでは、本日の出席議員から自己紹介をいたします。

では、順次お願ひします。

(丸山議員)

広報委員会副委員長を務めております丸山大輔と申します。選挙区は塩尻市です。よろしくお願ひします。

(寺沢議員)

皆さんこんにちは。安曇野市選出の広報委員寺沢功希です。本日は大変お世話になります。どうぞよろしくお願ひします。

(加藤議員)

皆さんこんにちは。同じく広報委員の長野市・上水内郡選出の加藤康治と申します。今日はよろしくお願ひ致します。

(両角議員)

松本市・東筑摩郡区選出の両角友成と申します。同じく広報委員をやっております。どうぞよろしくお願い致します。

(本郷議員)

地元選出県議ということで出席させていただきました松本市・東筑摩郡区選出の本郷一彦でございます。どうぞ今日はよろしくお願い致します。

(中川宏昌議員)

同じく地元選出議員ということで松本市・東筑摩郡区選出の中川宏昌でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(中川博司議員)

同じく中川といいますけれども、松本市・東筑摩郡区選出の中川博司といいます。今日は信大の学生の皆さんもいらっしゃいますが、信大は歩いて5分の所に住んでおりますのでよろしくお願い致します。

(続木幹夫議員)

塩尻市区選出の続木幹夫です。会派は改革・創造みらいです。皆さん会派を言わなかったのですが、どういう会派に属している人がどういう発言をするかということも非常に重要なことなので本当は言つて欲しかったのですが、私は改革・創造みらいです。よろしくお願い致します。

(荒井副議長)

以上であります。

本日ご参加いただいた参加団体の皆様につきましては、恐れ入りますが、お手元の出席者名簿の配付により御紹介に代えさせていただきたいと存じます。

本日の、「『こんにちは県議会です』地域住民等との意見交換会」は、日頃、松本地域で各種の活動に取り組んでおられる皆様から活動の紹介の発表をいただき、それらを踏まえながら、意見交換を行うことで、今後の議会活動に活かしていくということ、併せて、参加団体の皆様に県議会を身近に感じていただきたい、という趣旨で開催するものです。

なお、広く県民に広報するため、本日の概要については、後日、県議会のホームページに掲載させていただきますので、よろしくお願い致します。

それでは、各議員は、意見交換を担当する団体のテーブルに移動をお願いします。

○活動紹介

(荒井副議長)

続きまして、本日ご参加いただきました各団体の皆様から、団体の概要や、活動などについて発表をお願いしたいと思います。

進行の都合上、恐れ入りますが一団体につき5分程度でお願いいたします

まず、母親地域活動団体 シャインママ代表 桜井一恵さん、お願いいたします。

(母親地域活動団体 シャインママ代表)

こんにちは。よろしくお願ひいたします。

住民代表で、シャインママの桜井と申します。安曇野市から参りました。

私たちシャインママは、安曇野市地域で活動するママ団体です。発足したのが去年12月で、まだ活動し始めてから1年足らずの団体ですが、どんな団体なのかということで、ママと子供を笑顔にしたい、この地域を盛り上げたいというわくわくいっぱいのお母さんの集まりです。単なる育児サークルというわけではなくて、お母さんたちがものすごい力を持っているというのを日々感じていて、もちろん育児もすごく大変ですし、その中で仕事もやってきたキャリアもある方たちを、一人だと、お子さんたちが病気だったり、お家の介護だったり、なかなかできないのですが、団体になることによって、みんなでサポートしながら社会貢献ができたという事で発足しました。

シャインママというと、この季節、ブドウのシャインマスカットを思い浮かべる方もいるかと思いますが、そこからきています。シャインというのは、輝くという意味もありますし、社会で会社組織で働くくらいの気持ちでやっていきたいという社員という意味もまざっています。ママというのがお母さん、女性というので、合わせてシャインママという名前をつけました。お母さんたちもこれからの未来の、自分たちの子育てでしたり、自分たちの老後だったりということをものすごく深く考えていることもあって、女性目線で、母親目線で地域や社会に貢献できたらと考えています。

活動ですが、シャインママは月に一度定例会があって、集まってテーマを決めて話し合いをさせていただいています。

今まで1年間具体的にやらせていただいたことですが、今お配りした資料を御覧いただければわかりますが、ちょっと補足で、4月に白馬村議会の田中麻乃議員さんと一緒に議員のなり手不足についてみんなで話し合いをしました。それがNHKのイブニング信州で取材されました。なかなか女性が議員になるというのは敷居が高いと思っはいますが、地方の政治というのは生活に身近にかかわってくることでですので、本当はお母さんたちが問題を一番抱えている時期だと思うので、その点についてみんなで深く話し合いました。

あと先ほど問題にされていた海洋プラスチックや農薬というのものも、定期的に学習会を開いていて、

まずお母さんたちが知ることが大事だと思っていますので、何に偏るというわけではなくて、まず知識をみんなで共有しようということを大切にやっています。

そこでプラスチックの問題ですごく考えたのですが、毎日主婦は買い物もしますし、いろいろなものを購入するときにレジ袋は問題になっていると思いますが、そのレジ袋やプラスチックを使わないでいかに買い物ができるか、8月から10月まで、エコなマルシェというイベントを開催して実験をしました。これも市民タイムスで取材をしていただきました。野菜をはかり売りにして、パッケージに入れなくてそのまま買う。自分たちも編んだバッグや麻袋を持って行って、プラスチックを使わないで売ることができるか、買うことができるかという実験をしました。これは10月で実験は終了していますが、データを取って、この先どのような形でやっていくか、これから冬にかけて話し合いをしていきたいと思えます。

もう一つ、11月に安曇野スタイルという安曇野市で行われているイベントにも参加しました。ここでは、お母さんたちもいろいろな絵を描いたり、いろいろなものをつくっていたりということをやっているのですが、一人ではなかなかイベントを開催できない部分があって、そこをみんなでカバーし合う。事務的なことが上手だったり、いろいろ得意なお母さんが集まって、今回そういうことをやると大きなことができるということもみんなすごく良くわかりました。本当に今年1年走り切って実験でやってきたのですが、2年目はこの実績を生かして社会に貢献して、こういう県機関で意見をさせていただく機会もいただきましたし、自信を持って走り出していこうということで頑張っておりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

(荒井副議長)

ありがとうございました。

次に、一般社団法人松本青年会議所理事長 伊藤総一郎さん、よろしくお願いいたします。

(一般社団法人松本青年会議所理事長)

私はただいま御紹介にあずかりました一般社団法人松本青年会議所の本年度理事長の伊藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私どもの団体ですが、資料に書かせていただいたのですが、このまちに住み暮らす20歳から40歳までの国籍を問わない男女が所属できる団体でございます。現在82名のメンバーで一生懸命活動しているところでございます。私たちの住み暮らすこのまちがより良くなるように様々な面からまちづくりをしている団体でございます。ことしは60周年を迎えておりまして、清沢議長を含め私ども先輩方が本日たくさんいらっしやいまして、大変恐縮ですが、参加させていただきました。ありがとうございます。

本年度のテーマは、若者でまちを活性化しようということで、今話題のeスポーツにスポットを当て

て事業を展開させていただいたり、信州もつもと空港で、今度神戸―松本路線が就航になりましたが、こちらのほうで活性化を考えていこうということで、こちらは台風によって企画していたものが中止になってしまったのですが、沖縄の宮古島にある下地島空港にチャーター便を飛ばそうという企画もあり、いろいろな方面からこのまちを活性化しようということで事業を展開させていただきました。

選挙といった政治の面も私たちはしっかり考えさせていただいております。近年、歯どめのきかない投票率の低下を私ども本当に憂慮しております。そして先ほど議長からもありましたが、特に若い世代の投票率が低下している、伸び悩んでいるということで、本当に危惧している状況であります。

その中で、私どもは青年会議所として、資料に載せさせていただいているように公開討論会を主に実施させていただいております。資料には過去5年間の活動を添付させていただいております。2014年に衆議院選挙に関するもの、そして2016年に松本市長選挙に関するもの、そして2017年、こちらも衆議院総選挙に関するもの、そして本年は松本青年会議所有志と高校生とコラボして、今回いらっしゃっている長野県議会の選挙について公開討論会を実施させていただきました。御協力いただきありがとうございます。

5年間で4回企画をさせていただきましたが、目的としましては、候補者の方の書面だけでは触れることのできないという、話題に触れていただく、そういう場にさせていただくことのほか、あとは有権者が、候補者の政策として、公約をしっかりと明確にした上で投票を行ってもらおうということ、最後には突き詰めると自分たちが政治、そしてまちづくりに関心を持ってもらう主権者意識の向上を目的として実施させていただいております。

そういった場を提供させていただいたことは一定の効果が上げられたと自負しておりますが、実際に開催してみて、なかなか候補の方の調整がつかずに中止になってしまったりもありますし、また実施しても、思ったように動員に至らなかつたり、一番届けたい若者世代に足を運んでいただけないという課題もありました。今回はSNSを駆使しYouTubeを使って配信させていただいたりしても、なかなか若者の関心を引きつけられなかつたという課題があります。

来年はいよいよ松本市長選挙がございますので、公開討論会になるかわかりませんが、ぜひ投票率向上になるような活動を引き続き展開してまいりたいと思います。

本日もぜひ有意義な時間を過ごさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

(荒井副議長)

ありがとうございました。

次に、信州大学地域参画プロジェクト CHANGE 内田佑香さん、渡邊美織さん、渡辺大生さん、お願いいたします。

(信州大学地域参画プロジェクト CHANGE発表者)

地域参画プロジェクトCHANGEの活動内容を報告していきたいと思います。

そもそも私たちCHANGEとはどういう団体なのか、紹介したいと思います。

発足は2018年3月で、2017年に松本市議会に請願・陳情書を提出したのが発足したきっかけです。提出内容は、主に路線バスへのロケーションシステム、ICカードの導入の2点です。

私たちの活動目標は、少しでも私たちのいるこのまちを暮らしやすく、生きやすく、魅力的な場所へと変えていこうです。信大生が地域社会制度にかかわり、そのおもしろさを知るところから始めたいという思いで活動しています。メンバーは信大生23名です。

私たちが考える地域参画の方法は4つあります。1つ目、地域のことをよりよく知るためにさまざまな人と話をする。2つ目、関係者の方々に自分たちの考えを伝える。3つ目、請願・陳情書を提出する。4つ目、選挙に行き、投票するです。

2017年12月から2019年3月までの活動内容は、スライドのとおりです。オレンジ色が陳情書の提出、青色がメディア関連です。

2019年4月から現在までの活動内容は、スライドのとおりです。

こちらは、アプリの信州ナビに搭載されているバスロケーションシステムになります。こちらはCHANGEの代表である矢野さんが松本市に陳情書を提出したことがきっかけとなり、導入されました。

選挙に関する活動としては、主にこの4つを軸に活動してきました。

長野県知事選挙では、CHANGEはポスターを作成させていただきました。

また、CHANGE独自で、信大生はなぜ住民票を異動しないのかということについてアンケート調査を行いました。アンケートからは「異動する必要がなかったため」ということや「地元出身地で成人式に参加したために住民票を移していない」という回答が多くありました。

また、松本市議会議員選挙の候補者の方々にもアンケート調査を行いました。こちらのミスもあったかもしれませんが、候補者全42名の方にメールを配信したところ、回答者はたった5名という結果になってしまいました。

また、受動喫煙について陳情書を提出させていただきました。

公民館研究集会への参加ということで、昨年に引き続き、ことしも各地に分科会を持たせていただき、活動させていただいています。

CHANGEでは定期的にメンバーで集まり話し合いを行うお茶会や最近では大学の教室を使って1年に1回話し合いを行っています。

今期参加したイベントとして、ITカフェ@信州、まちづくりフォーラム、ゆめゆめ語り、松本県ヶ丘高校での主権者教育講演、松本あがたの会議、また、今期CHANGEのテーマの交通安全、松本市交通課職員の方にバスロケーションシステムやシェアサイクル事業についてなど松本市の交通についてインタ

ビューしました。

今後の予定としては公民館研究集会への参加などがあります。

最後に、若者の政治参加についてですが、CHANGEの中で意見交換をしました。1つ目に、政治参加について若者はどう思っているかについて、CHANGEの中では、政治に対して近寄りがたいイメージを持っている。身近なものに感じない。議会が何をやっているのか、自分がどのようにそこにかかわっているのかわからない。現状に満足しているし、声を上げようとも思わないなどという意見がありました。

そして2つ目に、若者の投票率を上げるためにはという部分では、住民票を異動しやすくする。不在者投票の制度をもっと広める。義務教育で選挙についてより詳しく扱う。選挙に行かないことのデメリットを考え、教える。また、県議会がしていることをポスター、チラシ、SNSなどで今以上に情報発信をするという意見が出ました。

今日は有意義な話し合いができればいいと思っています。

以上でCHANGEの発表を終わります。

(荒井副議長)

ありがとうございました。

最後に、信州大学政治参加推進コミュニティー VOTERS 代表 田村大地さん、お願いいたします。

(信州大学政治参加推進コミュニティー VOTERS代表)

皆さんこんにちは。VOTERSの代表をしています信州大学医学部2年の田村大地といたします。今日はよろしく申し上げます。

私たちは信州大学政治参加推進コミュニティーVOTERSということで活動報告をさせていただきます。

まず、私たちの団体は、目的は3つありまして、大学生が政治に関わりやすい環境をつくる。そして信州大学の学生を対象としている。そして公平中立の立場で活動するということです。

私たちはことし5月ごろに発足した団体で、まだまだ若いできたてほやほやですが、5月に発足したというので、当面の目標を7月に行われた参議院選挙において活動をしてきました。VOTERSのロゴですが、表紙に書いてあるように投票箱をイメージして、その中に1票入れるという形をイメージしてつくっております。スライドは少し歪んでいるので、1ページ目を見てもらえれば良いと思いますが。

設立に至った経緯ですが、これは私の問題意識がありました。私は今21歳ですが、ちょうど高校3年生のときに初めて18歳選挙権が施行される年でした。2016年7月10日に新しく改定された法律によって参議院選挙が行われて、私の同級生の中でも投票に行く人、まだ18歳ではなくて行けない人というのが分かる学年でありました。その中で結果を見てみますと、18歳はまだ高校生が多くて、投票率が高いという結果になったものの、19歳、20歳になると大きく落ち込んで、24歳まで徐々に回復していくとい

う形になりました。私はこれを高校生ながらに見ておりまして、どうしてだろうなということを感じたところでもあります。

そして私は2018年4月に大学に入学したのですが、その中で1年間感じたことがありました。まず、大学は結構狭いコミュニティーであり、その中で大学生活、勉強やサークル、アルバイトをしているだけではなかなか政治に触れる機会がない、自分から手を出さなければ、周りから聞くことが少ないということです。これは政治に関わろうという意識が薄い若者であれば、さらに意識がどんどん薄まっていくことにつながるのではないか。そしてもう一つは、大学生、特に信州大学は特徴的ですが、実家から遠く離れて大学に通っている。もちろんひとり暮らしで通っているという人が多いです。そういう中では選挙に行こうと思うと住民票を移してない人は実家まで帰らなければいけないということで、非常に制度的な壁が大きいと感じました。

では、この2つをどうしたらいいかということで何かしようと思って、5月に有志学生を集めて団体を立ち上げた次第です。

まず、私たちが行ったのは、松本市、そして長野県の選挙管理委員会の方々と懇談をさせていただきました。この中では啓発活動であるとか、投票所の設置に関しての前向きな懇談、情報交換ができました。そして学内で行った第一段の企画としては、6月19日に学生向けに選挙についての学習会を行いました。これは信州大学の中の教室で大学の先生に選挙に行く意味って何だろう、選挙の仕組みってどうなっているのかなということをお話いただきました。私たちとしては大学生向けの企画第1段だったのですが、非常に参加人数が少なくて、ちょっとがっかりしたところでした。

そして次に第2段の活動ですが、7月3日に、ちょうど今年の参議院選挙の公示日の前日に合わせて公開討論会を信州大学の中の教室で行いました。これには県内の各政党、主要7政党の団体の責任者の方々にお集まりいただいて非常に活発に議論を行うことができました。ここでは、私たちは学生の参加を一番心配したのですが、大学の中で授業が終わった後、夕方、すぐ近くにある、そして私たちも広報を頑張って学生同士のつながりで人を呼んだということもありまして、信州大学の中で一番大きな教室が結構人で埋まって、非常に活発な議論が交わされました。学生からの質問も対応し切れないうくらい多くの質問が出されて、非常に熱気を感じる場所でありました。

参加者は、合計で154人、そのうち学生が87人でした。私たちとしては参加者のうち半分以上を学生が占めたことは非常に大きな成果だと思っています。

寄せられた感想ですが、この会を「非常に評価する」「とてもよかった」と回答してくれる方が多かったです。一言感想文を紹介しますと、「政治というものは難しくてデリケートであるという印象があり、自分から関わるにはハードルが高いと感じていました。しかし、こうした場に一步踏み出したことによって、簡潔ではあるものの、それぞれの政党の意見を聞くことができ非常に参考になりました。参加してよかったです」という回答が寄せられました。

私たちとしては公開討論会だけに終わらせず、これを何としても選挙の投票所まで足を運んでもらおうということで次の企画を考えました。これは不在者投票ブースを設置したという企画です。信州大学の中は、後で出てきますが、8割、9割方が自分の実家を離れて暮らしている学生が多いです。そういう人でも地元に戻らなくても選挙ができるよという制度を知ってもらって、それを利用してもらおうことをやりました。皆さん御存じかもしれませんが、往復のやり取りあって、時間も手間も非常にかかるというもので、なかなか知っている人も少ないし、知っていてもやらない人が多いのが現状です。

これをやってもらうために、これも大学の中央図書館の1階で、一番目につくところにブースを設置しまして、1週間不在者投票の受け付けを行いました。ここでできるのは、手順を説明して、注意事項、そして請求用紙を渡して書いてもらって、封筒を渡して切手を張る、そこまでです。これを自分でポストに投函してもらって、返ってきた投票用紙は市役所に持っていくという形を踏んでやってもらわなければいけないのですが、ここで投票にかかる壁の第1段階を取り除くことができたと思っております。1週間、5日間やったのですが、この中で90人の学生がこれを利用してくれました。また、その他選挙管理委員会と協働して啓発活動も行いました。

選挙が終わって出てきた結果としては、全国の投票率が48.8%、半分の人が投票に行かない。18歳、19歳に至っては3割前後、3人に1人も投票に行かない状況になっていました。私たちとしてはこれは残念な結果ではあったのですが、前向きに捉えて、ではこれからどうしようかということを探るために信州大学でアンケートをとってみました。

まず、住民票に関してですが、出身地が県内の松本市以外、そして県外から来たという人が合わせて95%、松本市在住で大学に通っている人はたった5%しかいないということで、さらにそのうち住民票を移したと答えた人はほんのわずかしかなかったことを踏まえて、やはり不在者投票であるとか住民票の異動が大きな課題になると思います。

また、信州大学の中での投票率をはかってみると、大体全国の数字と同じくらい、30%と出てきます。一方で、政治への関心度はどれくらいですかと聞いたところでは、「ある程度関心がある」「関心がある」と答えた人が75%近く、4分の3くらいが関心を持っている。これをどういうふうに投票所までつなげていくかということが次の課題になると思います。

また、私たちVOTERSの活動認知度もはかりました。

選挙が終わって、選挙管理委員会の方々ともう一度今後どういうふうにして若者にアプローチしていくかという話し合いも行いました。

最後に、私の簡単な思いも紹介させていただきます。

現状の選挙の中では、半分の人が投票に行かないという選挙結果を見ても、これは民主主義として形になっているかという、僕はなっていないと思います。また、大学の中において感じるのは若者、特に大学生の層は、自分はここは支持だとか、こういう政策がいいという意思表示をすることに慣れていな

い。抵抗感を感じている。そうした若者たちにどのように働きかけていくかという、私はそれができる場を設定することが大事なのではないかと思います。いろいろな違いがあっても、それを隠さず、恐れず、発言できる場を用意して、さまざまな議員と交流してさらに政治への関心を高めてもらう、知ってもらうことが大事ではないかと思っています。

これから、VOTERSも少しずつではありますが、さまざまな活動を展開していきたいと思っておりますので、御協力をよろしく申し上げます。ありがとうございました。

○意見交換・懇談

(荒井副議長)

それでは、ただいまご紹介いただきました内容も踏まえながら、「地方議会選挙における投票率の低下、特に若者の投票率向上」について、意見交換を始めたいと思います。

なお、冒頭、清沢議長からご依頼がありました環境政策推進条例（仮称）については、この意見交換の後に、改めてご案内しますので、ご承知おき願います。

報道や傍聴の皆様は、自由に会場内を移動していただいて結構です。ただし、意見交換の支障にならないようにご注意願います。

それでは、17時を目途に意見交換をお願いします。

(意見交換・懇談)

(事務局)

残りの時間、10分です。

(事務局)

時間になりましたので、意見交換を終了してください。

続いて、「環境政策推進条例（仮称）」に関連し、10分ほど時間をお取りしますので、プラスチック廃棄物対策やエシカル消費行動といった、「環境問題」について、日頃抱えている問題や関心事についてご意見等を自由に発言いただければと思います。

それでは、お願いします。

(意見交換・懇談)

○議員感想発表

(事務局)

時間になりましたので、意見交換を終了してください。

(荒井副議長)

それでは、これまでの意見交換を踏まえ、各グループを代表して、出席議員から意見交換の内容や感想を発表願います。

まず、母親地域活動団体シャインマムのグループから本郷議員お願いします。

(本郷議員)

今日は女性の皆様方4名に御出席いただきました。投票率なり、若者世代の問題につきましては、中学、高校あたりの教育の中で政治を教えなければいけないのではないかとということが共通の御意見でございました。

それから、家庭教育がさらに大事で、やはり子供たちにそういう意味で家庭教育の中で自然に政治の話が出るように、子供たちで模擬投票をしたりして、その結果によって投票所に行くということのようでございます。

つまり教育は、家庭教育、学校教育、社会教育、生涯教育というカテゴリーに分かれますが、家庭教育の中でその基盤ができる。そしてさらに学校教育、特に中学、高校においてもう少し深掘りした政治に対する教育をしなければいけないのではないかとということが共通の問題です。例えば、子育て支援の問題についてもそうで、行政が、政治が、議会が大きな決定力を持っているわけでありますので、その連動性と基本を教えることがまず大事です。

それから、環境問題については、一般論と意識がまだ非常に低い。しかし、エコバッグを持ってスーパーに行く約90%くらいの方はそういう認識を持っておりますので、環境問題が地球温暖化ともみんな連動しているということの中で、非常に浸透度が高い。あとコンビニや衣料品店等ではそれに対する対応ができていないというのが共通認識でした。

その他いろいろな問題がありましたが、以上をもって報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(荒井副議長)

次に、一般社団法人松本青年会議所のグループから加藤議員お願いします。

(加藤議員)

私どものグループは青年年会議所さんから貴重な御意見を頂戴いたしました。

青年年会議所さんは、公開討論会という形で政治に関心を持っていただくということで取り組んでいただいているわけですが、その中で話が出たのは、選挙のときだけで終わらせるのではなく、議員が実際どういう形で政策に結びつけたのかという検証が大事なのではないかと、それがあると、次の選挙、討論会にもつながっていくのではないかとのお話がありました。

あと討論会にお見えになっていただく方は政治に関心があるということでもいいのだが、逆にお見えになっていただけない方をどのようにこちらに引きずり込むかということが大事ではないかという話がありました。そんな中では例えば若者の関心ということを踏まえると、こちらから若者の皆さんが集まるイベントへ出向いて行って、そこで一緒になって政治のことについて関心を持っていただく取り組みをしていくことが大事だというお話もありました。

また、メンバーの中からですが、御結婚されてお子さんが生まれてから、逆に子育ての関係で行政、また政治が身近になったということで、そこから政治への関心を持つようになったというお話もありました。そういった意味で私たち一人一人が政治は身近なものだと感じていただくことが投票率の向上には重要なのではないかとのお話がありました。

あと先ほど本郷議員からもお話もありましたが、教育というのが大事で、いかに子供のときから民主主義を経験させるかが将来の投票行動という部分にも通じてくるのではないかとのお話もありました。

また、環境保護については、条例をつくるに当たっては県民の皆様お一人お一人の行動につながるような形で行政としても押し出していく条例にしていくことが重要なのではないかとのお話がありました。

以上でございます。ありがとうございます。

(荒井副議長)

次に、信州大学地域参画プロジェクト CHANGE のグループから中川博司議員お願いします。

(中川博司議員)

学生の皆さんとお話をさせてもらいまして、何で投票に行かないのかということですが、一つは選挙と言われても、政治そのものがわからない中で、投票に関心が持てない、政治に関心が持てないということや18歳投票と言われてたのですが、そのときはほぼ受験で頭がいっぱいということで、頭が選挙というところにはいかないとか、それから、政治に自分が関わらなければならない理由がわからないということで選挙に行かないということをおっしゃいました。

それで住民票を移してない人もたくさんいるのですが、住民票を移すメリットが、投票に行くことだ

けであるなら、逆に成人式に出られないので住民票を移さない。だから投票に行くメリットは余り感じられないということを言われました。

そういう中で、ではどうやったら政治や選挙に近づいていけるのかということを経験したのですが、特にCHANGEの皆さんはそういうところを入り口としているグループなので、例えばバスに乗ったときに、いつバスが来るかわからないことだとか、ICカードがないので、細かいお金を持っていないときに立ち往生したとか、そういう自分たちが困っていることをCHANGEの中で相談して、それを具体的にではどうしたらいいのかということを考え始めて、メールで松本市の交通政策課に問い合わせをしたら、いつか会って意見交換しましょうというふうにとんとんとつながっていく、政治へとつながっていくプロセスが広がっていったという経験が非常に大きいということが言われました。

県議会への要望としては、もっと情報発信の方法を、若い子たちがタッチしやすいものに変えていく一つの方法として、アルクマに興味があるので、アルクマが県政の話題や県議会の課題を発信したらどうだろうかという提案があったり、ツイッターやインスタなどさまざまな情報発信ツールがあるので、その全てを使ってさまざまな発信をしたらどうかといったことも言われました。

環境条例については、いろいろあるのですが、言われたことだけお話しすると、SDGsと言いますが、今の若い人はみんな知っているんですね。親の世代である私たちが知らないということは知ってほしい。それから、条例で一体何が変わるのかを明確にしてほしいということも言われました。

具体的には2つ提案がありました。ごみの収集・分別を徹底すべきだという意見と、身近な問題でいうと、学校の教科書は使わなければ捨ててしまうので、それを貸し出し制にしてやったほうがいいという提案です。これは皆さんに伝えておきます。

以上です。

(荒井副議長)

最後に、信州大学政治参加推進コミュニティ VOTERS のグループから中川宏昌議員お願いします。

(中川宏昌議員)

VOTERSさんは2つの使命を持ってこれまで活動してきました。1つは政治との接点を持つということ、そしてもう一つは信州大学内での投票率を上げる、この2つの目標に向かって今活動しておりまして、大変感銘を受けたところです。

お話をお聞きする中で、皆さん大学生の前は高校生だったわけで、初めて18歳選挙権になってから主権者教育が始まったのですが、そのほとんどが投票の制度の内容で、議論のところまでいかない授業であったということで、これをどのように変えていくかということが今後非常に課題であると思いました。

加えて、日ごろ住んでいる中で、親御さんや周りの人の政治に対する関心も薄れている中で、これは

非常に大きな課題であるとは思いますが、そういった醸成をどうつくっていくかということが非常に大事だと思いました。その中におきまして、今若い方との世代間のギャップがあるということで、政治に携わる私ども議員としては世代間のギャップをどうやって埋めていくかが一つ重要であるということをお学ばせていただきました。

実際、私どもも若い方にしっかり情報を発信していこうということでSNSをやっておりますが、実際には伝わっていないという現状、その中で広報をどうやっていくかといったときに、お二方から一番いただいた御要望が、若い方と議員の接点を持つということの要望を受けさせていただいたところです。そういった中で若い方の興味を持っているものをしっかりとお話していく、また、わかりやすく話していくことがとても大事だということも学ばせていただきました。

環境条例についてですが、お二方の日ごろの生活している中でのことについてお話をいただきましたが、特にコンビニへ行くと過剰なレジ袋を渡してくる。そしてもう一つは海外留学の経験から、マレーシアに行ったときにはマイバッグでそれぞれやっているということで、レジ袋をいただく場合にはお金を払うといった状況の中で諸外国は減らしている。こういった部分について、この条例の中でどういうふうに位置づけていくか、非常に学ばせていただきました。

以上でございます。

(荒井副議長)

続いて 続木幹夫議員をお願いします。

(続木議員)

今中川議員からほとんど主なことは言っていたものですから、補完的に発表させていただきます。VOTERSの最初の紹介の中で、今の若者は意思表示をすることに抵抗感や恐怖感があるということで、これはどうしてそうなったんですかと聞いたら、そういう教育だと。自分の意思を表示することを教育の中で無意識に抑えられている感覚がという意見がありまして、なるほどなど。これは皆さんが言った教育という部分で、主権者教育が実質的には全くなされていないということが言われました。

それから、環境については、この条例をぜひ実効性のあるもの、効力のあるものにしていただきたい、こういうことです。

以上です。

(荒井副議長)

それでは、時間の許す限り、参加団体の皆様や他の議員からもご意見やご感想を頂戴したいと思います。

恐れ入りますが、発言される方は、挙手をお願いいたします。マイクをお持ちしますので、お名前をおっしゃってから発言をお願いいたします。

どなたかございますか。何でも結構でございます。

それでは、広報委員会で副委員長をやっていたいております丸山大輔議員から何かありましたら、お願いしたいと思います。

(丸山議員)

皆さんの話とも重複する部分だと思いますが、投票率向上に向けては窓口がもっと要るのではないかなという話が私は糸口になった気がします。何か問題を抱えたり、こうしたいというときに、どこに行つて、誰に話をしたらいいかがわからないといったところで諦めてしまうという話を聞かせてもらって、そこを何かしら我々議員も一つの窓口になれると思いますし、県・市議の中でもそういった窓口ができていけば、少しずつ自分の思いが政治を変えられるということにつながっていくのではないかなということを感じさせてもらいましたので、そういった面を今後研究していきたいと思ったところであります。

以上です。

(荒井副議長)

ありがとうございます。

それでは、広報委員から、両角議員お願いします。

(両角議員)

中身については先ほど本郷議員から言われたとおりであります。1点、我々県議会、議員に対して何か思いは、と言いましたら、「遠い」と最初は言ったのですが、もう一つ「見えない」と言われて、余り遠すぎて見えないのかよくわかりませんが、いずれにしても私たちが見えないということと言われました。たまたまうちのテーブルには議長がいて、議長がどこへでも行きます、呼んでくれたらどこへでも行きますと言われましたので、私たち議員は呼ばれたら行くという姿勢でこれからやっていかなければいけないということを今回の会を通じて感じました。

以上です。

(荒井副議長)

ありがとうございます。

それでは、寺沢議員お願いします。

(寺沢議員)

政治について議論することがタブーになっている雰囲気があるというお話がありました。ぜひ皆さんの取り組みによって、そういうことではなく、この間ラグビーワールドカップが日本でも開催されましたが、議論するところは議論する。でも議論が終われば、そこでノーサイド、それを持ち込まない、そういう感覚で、皆さんが政治に対して議論する雰囲気になればと思っております。

それから、両角議員からも話がありました。接点がない。非常に遠い存在だというお話もありました。我々は全然特別ではありません。近所のおじちゃん、おばちゃんと同じですし、同級生のおやじさん、おふくろさんと同じ感覚です。ぜひ今日こうやってお話ができたいい機会だと思いますので、気軽に呼んでいただければと思います。ぜひこれからも議論をしていければと思いますし、これからの活動により皆さんの考えに共感する方が増えていけばと思います。皆さんのこれからの活躍を大いに期待いたしております。本日はどうもありがとうございました。

(荒井副議長)

ありがとうございました。

そろそろ時間になってまいりました。ここで意見交換の時間を終わりにさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

○議長所感

(荒井副議長)

それでは、最後に、清沢県議会議長から今回の意見交換会を踏まえまして、感想とお礼の御挨拶を申し上げます。

清沢議長、お願いいたします。

(清沢議長)

今日は本当に御熱心なお話し合いをいただきましてありがとうございました。

長野県議会では、議会基本条例をつくりましたが、地域住民の皆さんと色々な話をしていこうという中身の条例であり、今回の意見交換会もその一環であります。

実はこの前災害の視察に行きましたが、松代自治協議会というのがありまして、そこにごみを一つの公園の中にまとめてあるのですが実に整然と分別してやっているんです。ほかのところ、そうでもないところもいっぱいあるわけですが、なぜそこがそういうふうにできたかといいますと、一人の市議會議員がごみが捨てられ始めたときに、ここはこうやって分別してやっていこうということを言い出して、そしてそのとおりになって、今では他地区、例えば私が行ったときは町田市や金沢市の人たちがボラン

ティアで応援に来てくれて、分別をさらに手伝っています。

私が今何を言いたいかと申しますと、選挙の投票率の向上にしても、環境の問題にしても、リーダーになる人がとても重要だと思います。だからここに今日来ていただいた皆さんはぜひリーダーといひますか、先に立ってやろうじゃないかという方になってもらえたらありがたいということが一つ、それから、もう一つ、信州大学の皆さんが大勢来ていただいています、県議会と大学との包括連携協定についてこの前協定書に調印しました。この地域でいひますと信州大学や松本大学とか、県内6大学、プラス短大の皆さんということで、そういう意味で包括連携協定を結んだということは、皆さんの意見を常日ごろぜひ聞かせていただく、もっと今まで以上に、協定があるのだから楽に聞かせていただければありがたいと思います。今日みたいな話を我々に聞かせていただければありがたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

今日は本当に貴重な、我々が日ごろ耳にしない御意見をお聞かせいただきましてありがとうございます。また今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

(荒井副議長)

清沢議長、ありがとうございました。

○閉会

(荒井副議長)

以上をもちまして、「『こんにちは県議会です』地域住民等との意見交換会」を終了いたします。

参加者の皆さん、そして、傍聴をいただいた皆様方、誠にありがとうございました。